

第5学年 社会科学学習指導案

奈良市立東登美ヶ丘小学校 吉岡 知咲
国元 穂高
尾山 敏基

1. 単元名 海なし県・奈良から海について考えよう ―海の豊かさを守る東登美っ子の活動―

2. 単元の目標

- ・ 日本の水産業にかかわる資料から、従事している人々の工夫や努力、輸送の働き、水産業が抱える課題などを読み取り、それらが環境や自分たちの生活に深いかかわりがあることについて理解できる。(知識・技能)
- ・ 奈良県でいつまでも新鮮な魚を食べられるようにするために、いろいろな視点から日本の漁業を持続可能にする方法を考え、適切に表現することができる。(思考・判断・表現)
- ・ 自分たちの生活と海にかかわりがあることに気付き、消費者としての行動について意欲的にまとめたり、発表したりすることができる。(主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

本単元は学習指導要領解説第5学年の内容(2)「我が国の農業や水産業における食料生産について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。」にあたる。

(2) 我が国の農業や水産業における食料生産について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 我が国の食料生産は、自然条件を生かして営まれていることや、国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることを理解すること。

(イ) 食料生産に関わる人々は、生産性や品質を高めるよう努力したり輸送方法や販売方法を工夫したりして、良質な食料を消費地に届けるなど、食料生産を支えていることを理解すること。

(ウ) 地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 生産物の種類や分布、生産量の変化、輸入など外国との関わりなどに着目して、食料生産の概要を捉え、食料生産が国民生活に果たす役割を考え、表現すること。

(イ) 生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、食料生産に関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考え、表現すること。

本単元では、内陸県である奈良県に住む児童にとって、一見かかわりのないように思える水産業や海と、全国どこでも食べることができる身近な寿司とを、児童と海をつなぐ教材として注目した。日本有数の漁港である長崎漁港について学び、自分たちの食生活(特に海産物)を見つめることを通して、日本の水産業や世界の海洋がかかえる問題について考え、内陸県から持続可能な海産物の供給のために自分たちにできることを探っていくのが本単元である。

一つ目の教材として、児童にとって身近な寿司を取り上げる。内陸である奈良県でもいたる所に回転ずし

のお店があり、本校の校区やその周辺にもいくつもの種類の回転ずし店が点在しており、海と児童をつなげるという点において適した教材である。また、奈良県の伝統的な郷土料理に柿の葉寿司がある。タンニンが多く、緑色が鮮やかな渋柿の葉が使われる。飯に含ませたお酢と柿の葉に防腐効果があり、海のない奈良県でも魚が食べられるよう保存食として生まれたという説がある。この二つの寿司を比較することで、「なぜ今は普通の寿司が内陸である奈良県でも食べられるのだろうか？」という疑問につなげたい。

二つ目の教材として、児童にとってあまり馴染みのない水産業について理解するために、長崎漁港を取り上げる。日本は、世界三大漁場の一つと称されるほど、大陸だなや潮目、海流などに恵まれた自然環境が整った国であり、古くから漁業が盛んに行われている。そのため海産物は日本人の食生活に欠かせないものであり、一人当たりの年間消費量は常に世界の上位である。長崎漁港はそんな日本の中でも、漁業生産量全国2位（2016年）、漁獲できる魚種が全国1位（2016年）と全国でも有数の漁港であり、沖合漁業・養殖業などが盛んに行われている。漁業に従事する人々の工夫や努力、運輸のしくみなどを学ぶ教材として最適であると考えられる。そこから奈良県にありながら、水産仲卸売場などがある奈良県中央卸売市場について触れ、身近なところにも水産業に関わる人々がいるということに気づかせるとともに、そこで働かれている方にお話を聞くことで、これまでの学習を深めたい。

この二つの教材について学ぶ中で、日本の水産業や世界の海洋がかかえる課題を捉えたり、自分たちの生活を見直したりし、海と自分たちの生活がつながっていることに気づき、結び付けて考えたい。そしてこの単元を通して、多角的な視点から持続可能な社会の実現に向けて、海や水産業の課題を自分事として捉え、内陸に住む自分たちにできることを考える中で、単元の目標の達成に迫りたい。

(2) 児童観

校区近くに回転ずし店が多いこともあり、ほとんどの児童が、回転ずし店に行き、魚を食べたことがあると答えた。魚を食べることは自分たちの生活にとって身近なことであり、おいしくて新鮮な魚を食べたいという思いは強い。しかし、実際に魚を釣りにいったり、持ったりしたことがある児童はわずかである。また、自分たちが食べている魚がどこでどのように水揚げされ、届けられているのかということに関心は少なく、海がない奈良県に住んでいることもあり、自分たちの生活とは関係がないと捉えている児童が多い。また、自分の主張を伝えることはできるが、自分とは異なる主張を受け入れることが苦手である。そのため、一つの問題に対して多種多様な視点から受け入れられるようになる必要がある。そして、水産業について興味を持ち、その知識を得て、世界や日本が抱える問題を資料から読み取り、自分事としてとらえて考えていくことが課題である。

(3) 指導観

「みつめる」では、児童にとって身近な回転ずしを取り上げたり、本物のハマチを子どもたちに見せたりすることで、魚に対する興味を高める。そうして、内陸に位置する奈良県でも日々多くの水産物が自分たちの生活にかかわっていることに気付かせ、「なぜ、奈良県には海がないのに、たくさんの海産物を食べられるのだろうか。」という学習問題を設定する。

「しらべる」では最初に、日本が大陸だなや潮目、海流などの自然環境に恵まれた良い漁場であること、その中で沖合漁業・養殖業などが盛んに行われている長崎県の水産業について資料や動画を通して学ばせる。この時に、児童が資料から読み取ったことをノートにまとめながら授業を進めていく。それと同時に進行で、お家の人に対して、「一週間のうちどれぐらい魚を食べているのか」「お家の人で魚をさばける人はいるのか」などのアンケートをとり、自分の生活と水産業とのかかわりをより深く感じさせる。さらに、奈良県中央卸売市場の方にゲストティーチャーとして来ていただき、奈良で漁業に従事する人々の工夫や努力、運輸のしくみなどについてお話を聞いたり、疑問に思ったことをインタビューしたりして、奈良県にも水産業に関わる人の存在に気づかせる。それらの学びを通して、奈良・日本の水産業がかかえる課題や世界の漁業・海洋がかかえる問題について考えさせる。

「ふかめる」では、豊かな水産物がある世界を持続可能にしていくために、自分たちにできることは何か

をさまざまな立場から考え、意見を交流させる。持続可能な社会を実現するためには、様々なアプローチの仕方があることに気づかせたい。

最後に「ひろげる」で、学習の集大成として考えたことをお家の人や、奈良県中央卸売市場の方に伝える活動を通し、最終的には海があるなしに関わらず、日本の水産業や世界の海洋が自分たちとつながっているんだという当事者意識をもつこと、資料やゲストティーチャーの話を通して様々な角度から物事を考えられる子どもを育てたい。

(4) ESDとの関連

- ・ 本学習で働かせるESDの視点（見方・考え方）

相互性・・・海と自分たちの生活はつながっていることに気付く。

責任性・・・運ばれてくる魚を食べる消費者としての自覚を持ち、海洋環境や日本の水産業を守るために、自分たちの消費行動を見直すことが大切である。

- ・ 本学習で育てたいESDの資質・能力

システム・シンキング：内陸県と海とのつながりや、水産業を持続可能にする方法について多面的・総合的に考える。

コミュニケーションを行う力：お家の人に、魚を食べる頻度・買う基準についてアンケートをしたり、奈良県中央卸売市場の方にインタビューをしたりして、自分の考えを作り上げる。

進んで参加する態度：持続可能な水産業にするために自分にできることはないかと考え、意欲的に解決策を考えたり、消費行動を見直したりして、海の豊かさを守ることに貢献しようとする。

- ・ 本学習で変容を促すESDの価値観

○自然環境、生態系の保全を重視する

日本の水産業が抱える課題を自分事としてとらえ、水産業を成り立たせ海の豊かさを守るための自分たちができる消費行動を考える。

○世代間の公正

自分の世代だけでなく、海の豊かさを未来へつないでいこうと考え行動する。

- ・ 達成が期待されるSDGs

12 つくる責任 つかう責任

14 海の豊かさを守ろう

4. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①日本の水産業にかかわる資料から、従事している人々の工夫や努力、輸送の働き、水産業が抱える課題などを読み取っている。 ②自分たちの生活が、海や水産業に深いかかわりがあることについて理解している。	いろいろな視点から日本の水産業を持続可能にする方法を考え、適切に表現している。	①海に親しみをもち、意欲的に日本の水産業を持続可能にする方法を考えている。 ②消費者として、水産業を持続可能にしたり、海の豊かさを守ったりしていこうとする態度を表している。

5. 単元の指導計画（全 14 時間）

次	主な学習活動	学習への支援（・）	評価（△） 備考（・）
み つ め る （ 1 時 間）	<p>回転ずしや柿の葉寿司などの身近な海とのつながりについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サーモンが好き。 ・マグロばかり食べている。 ・いつも行くのはスシロー。 ・柿の葉寿司って何？ <p>そのままの魚と、寿司ネタとが一致するかのクイズに答える。</p> <p>今後の活動の見通しをつかむ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・柿の葉寿司の発祥の理由などについて説明する。 ・内陸県だが、海とのつながりがあるということに気づかせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・海と自分たちとの生活とのつながりが見えにくくなっていることを押さえる。 	<p>△ ア ② （知・技）</p> <p>△ ウ ① （主体的）</p>
<p>なぜ、奈良県には海がないのに、たくさんの海産物を食べられるのだろう。</p>			
し ら べ る （ 7 時 間）	<p>水産業がさかんな地域について調べよう。</p> <p>① 日本と水産業とのかかわりについて調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魚が多くとれる場所は、暖流と寒流がぶつかる所だ。 ・日本ではいろいろな魚がとられている。 <p>② 長崎漁港で行われている漁法や働く人々の工夫や努力、加工や運輸について、資料をもとに調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沖合漁業のまきあみ漁が有名。 ・新鮮な魚を届けるために、漁港では手早い荷づくりが行われている。 ・ふぐの養殖や、水産加工品（かまぼこ）を作っている。 <p>③ 家庭での消費行動について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魚をさばくことができる。 ・外国産の魚を買っていることがある。 ・値段を重視して購入している。 ・週に2日魚を食べている。 ・サーモンやマグロをよく食べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・用語（海流や大陸だな、プランクトンなど）をおさえる。 <ul style="list-style-type: none"> ・教科書の資料や、水産庁のデータをもとに分かったことをノートにまとめていく。 <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート項目を決めておく。 	<p>△ ア ① （知・技）</p> <p>△ ア ① （知・技）</p> <p>△ イ（思・判・表）</p>
	<p>④ 日本の水産業の課題について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・200海里水域の影響で沖合、遠洋、沿岸漁業は減少し、養殖業が増加している。 ・漁業で働く人数が減少。 ・魚そのものが少なくなっている。 ・外国産の安い魚を輸入している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の資料から日本の課題を読み取る。 	<p>△ ア ① （知・技）</p> <p>△ ア ② （知・技）</p>

<p>しらべる</p>	<p>⑤ 世界の水産業の課題について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海洋汚染 ・不法な漁獲（IUU 漁業など）の仕方 ・乱獲 <p>⑥ ゲストティーチャー（奈良県中央卸売市場の方）に、奈良までの輸送の流れや、新鮮さを保つための工夫や奈良県の水産業についてお話を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁港からすぐにトラックで運ばれる。 ・魚の値段は、輸送する費用も加わっている。 ・河川漁業と養殖業がある。（海がないから） ・あゆ、あまごの養殖が有名。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットや水産業の本から世界の課題を調べる。 ・奈良県以外のいろいろな漁港から、新鮮な魚が自分たちの食卓まで届くのに、運送方法や市場の保存方法などいろいろ工夫があることに気づかせる。 ・奈良県にも水産業に関わる人たちがたくさんいることに気付かせる。 	<p>△ア① （知・技）</p> <p>△ア② （知・技）</p> <p>△ア① （知・技）</p>
<p>ふかめる （1時間）</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> <p>魚食の未来を守るために私たちができることは何だろう。</p> </div> <p>世界と日本がかかえる水産業の課題からこれからの魚食について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後魚が食べられなくなるかもしれない。 <p>魚食の未来を守るためにできることを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海のエコラベルのついている食材を積極的に選ぼう。 ・お家の人と相談して、買う魚を選ぼう。 ・漁師の魅力を伝えるポスターを作ろう。 ・マイバッグを持参しよう。 ・リサイクルをする。 ・好き嫌いせず、魚を食べよう。 ・川にゴミを捨てず、きれいに保とう。 ・こまめに電気をつけたり消したりしよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これらの課題が続くと日本の水産業の衰退や海洋環境の悪化につながり、今後魚を食べられなくなる、海の恩恵を受けられなくなることに気づかせる。 ・2048年問題について説明する。 ・海の有無に関係なく、自分たちは水産業と大きく関わっていることに気付かせる。 ・自分たちの行動が、水産業や豊かな海を守ることにつながることに気付かせる。 	<p>△イ（思・判・表）</p> <p>△ウ①② （主体的）</p> <p>△イ（思・判・表）</p> <p>△ウ①② （主体的）</p>
<p>ひろげる （5時間）</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> <p>行動指針をまとめ、お家の人や卸売市場の方に伝えよう！</p> </div> <p>奈良に住む者としての行動をまとめ、「海なし県・奈良から海を守る 私達の行動指針」を作る。</p> <p>伝え方を考え、お家の人や卸売市場の方に伝える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大人にどう伝えるべきかを考えさせる。 	<p>△イ（思・判・表）</p>

(1) 本時のねらい

- ・自分たちの生活と海や水産業にかかわりがあることに気づき、単元を通して追究する学習課題をつかむ。

(2) 本時の展開

	○学習活動・予想される発言	○学習への支援	○評価
導入	<p>○「どの回転ずし屋さんに行くか」「よく食べる寿司ネタは何か」を発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スシロー・くら寿司・はま寿司… ・マグロが好き。・イカをよく食べる。 	<p>○すし屋を選ぶ理由なども、聞いてみる。</p> <p>○特に制限なく、思いついたいろいろなことを話せる雰囲気を作る。</p> <p>○自分たちと海・水産業とのかかわりを押さえる。</p>	ウ① (主体的)
展開	<p>○奈良県の位置の特徴、柿の葉寿司について知っていることを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内陸県・海がない ・葉っぱでくるまれている。 ・サバとサーモンがある。 <p>○魚クイズに答える。</p> <p>○現在と過去の寿司について比較し、学習課題をつかみ、予想を立てる。</p>	<p>○近畿圏の地図を見せ、視覚的な気づきを促す。</p> <p>○あまり身近でない児童のために、柿の葉寿司の画像を用意し、発祥について説明する。</p> <p>○実際の魚を用意し、その魚がどの寿司ネタになっているかを考えさせることで、海と自分たちのつながりの見えにくさに気付かせる。</p>	ア② (知・技)
	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p>なぜ、奈良県には海がないのに、たくさんの海産物を食べられるのだろう。</p> </div>		
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・今は交通網が整備されているから。 ・冷凍技術が進歩しているから。 ・早く持ってこれるようになったから。 <p>○今後の活動の見通しをもつ。</p>	<p>○これからの児童の考えによって変化が生じると思われる部分の計画については明言せず、児童主体で学習が進められるようにする。</p>	

(1) 本時のねらい

奈良県にはどのように全国から魚が届いているのかを理解する。

(2) 本時の展開

	○学習活動・予想される発言	○学習への支援	○評価
導入	<p>○前時までの復習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水あげされた魚は、市場に売られてからスーパーマーケットなどで売られる。 ・新鮮さを保つために手早く、保冷して出荷がされている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・水あげされてから出荷されるまでの流れを思い出せるようにする。 	
展開	<p>○みんなの家にはどのようにして魚が届くのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スーパーで買う。 ・奈良にも市場があるのではないか。(中央卸売市場) ・漁港から市場に届けられて、スーパーに届けられたものを買っている。 <p>○中央卸売市場の人に質問したいことを考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのような状態で魚が届くのか。 ・スーパーに売るために工夫していることはあるか。 ・どこから魚が来ることが多いか。 ・外国からの魚はどのように仕入れているのか。 ・どんな魚が人気か。 ・一日どれくらいの魚が売れるのか。 ・どんな仕事をしているのか。 	<p>○海のない奈良県にも魚を取り扱う市場があることに気付かせる。(奈良県中央卸売市場のプロモーションビデオを見せてどんなところかイメージをつけさせる。)</p> <p>○中央卸売市場ではたらく人が学校に来て、中央卸売市場に仕組みについて教えてくれることを伝える。</p> <p>○まずは個人で考えた後、グループになって質問を共有させることで、様々な質問が出るように促す。</p>	<p>△ア① (知・技)</p> <p>△ア② (知・技)</p>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習を振り返る。 		

(1) ねらい

水産業の課題から、自分たちの魚食の未来について考え、自分の行動と結びつけて解決策を考えることができる。

(2) 展開

段階	学習活動・予想される児童の反応(・)	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
導入	<p>○前時の復習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の課題 →漁業生産量・漁師の減少、魚の消費量の減少 ・世界の水産業の課題 →海洋汚染、プラスチック、IUU、乱獲問題、地球温暖化 <p>○魚食の未来について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後、魚が食べられなくなる。 	<p>○前時のノートを確認させる。</p> <p>○黒板に掲示する。</p> <p>○2048年問題の資料を見せる。</p>	△ア①(知・技)
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 魚食の未来を守るために私たちができることは何だろう。 </div>			
展開	<p>○それぞれの課題から自分たちができることをプリントに書く。</p> <p>魚の消費量の減少</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本産の魚を食べる。 ・魚を食べる機会を増やす呼びかけをする。 <p>海洋汚染問題・プラスチック問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海を汚さないために、海や川にごみを捨てない。 ・プラスチックのごみを増やさないためにリサイクルボックスへ入れる。 ・マイバッグを使う。 <p>地球温暖化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水や電気の使い過ぎに注意する。 <p>IUU 漁業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国産の物を買う。 ・魚を買うときに値段を気にしてみる。 <p>○4人グループで共有した後、グループの代表が黒板に書く。</p>	<p>○例をいくつか聞いて、書き方を説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・答えはないこと。 ・どの視点から考えてもいいこと。 ・たくさん書いていいこと。 ・自分たちの生活とつながりがあるということを意識させること。 ・ノートや資料集など参考にしてもいいこと。 <p>○活動の仕方をロイロノートで説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達の見解も書き加えていいこと。 	△イ(思・判・表)
まとめ	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 今日出た意見の中から、自分ができることを一つ選ぼう。 </div>		
	<p>○本時の振り返りをプリントに書く。</p> <p>○次回予告をする。</p>	○振り返りの書き方を説明する。	△ウ②(主)

7. 成果と課題

①成果

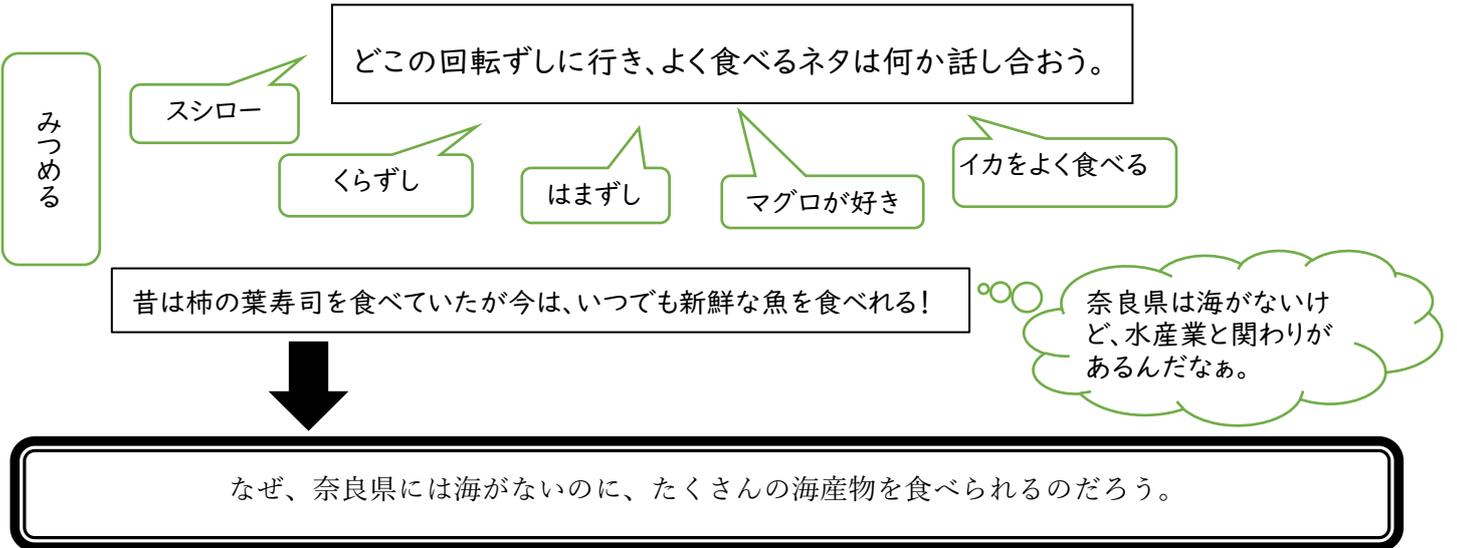
- ・単元の導入で実際に本物の魚を見せたり触らせたりすることで、児童が興味を持って学習に取り組むことができた。
- ・海がない奈良県に住んでいるが、学習を通して海に関して敏感になった。
(身近なゴミが海の環境につながっているなど)
- ・SDGs に目を向けることが多くなった。
- ・広げる活動では、他の学年に学習したことや自分たちにできることを伝えることができた。

②課題

- ・中央卸売市場の GT に来ていただいたが単発になってしまい、もっと GT を学習の中に組み込んでいくことができればよかった。
- ・「広げる」では、うまく広げる方法を考えることができなかった。中央卸売場の方とつながったなら、その後も連携をとるか地域とつなげたりできたのではないかな。
- ・グループ活動での交流の時、「どうして☆つけたん?」「なんでそう思うん?」など、ゆさぶりをかけたらもっと話し合いが深くなったのではないかな。

8. 単元構想図

水産業のさかんな地域（全 14 時間）



長崎の水産業について調べてみよう

